

裁断機が新しくなりました！



3月11日(土)に
裁断機が新しくなりました。
有効幅が1470mmから1600mm
になりカットできる幅が広がり、
入力画面もタッチパネル
となりました。

柳原

これもガラパゴス化

森 直樹 (代表取締役社長)



農業用のフィルムに関して問い合わせをいただき、いろいろと調べていたところ意外な国の名前が出てきました。「イスラエル」です。イスラエルの食料自給率は95%。国土の50%は砂漠、年間降雨量は平均700ミリ。日本の降雨量は年間全国平均で1750ミリ。また農業に従事する人口は8万人に対して日本は190万人。そして農産物の輸出額は2700億円に対して日本は4500億円。日本はイスラエルの23倍の農業人口がありながらも輸出はイスラエルの1/9倍しか行っていないのです。そこにはイスラエルがいかに少ない水資源で効率よく農作物を生産するかという意志が数字として表れています。このような高効率の農業を可能にしたのは「点滴灌漑」という水をチューブ経由で作物に少量づつ与える機械制御の方式で、この技術(生産システム)自体も商品として世界各国に輸出されているとのこと。このような状況を知ることになったのは、「環境」(需要)がその産業の隆盛を左右するということです。かつては日本の携帯電話が海外メーカーには無い独自の規格・機能の「ガラケー(ガラパゴス携帯)」と呼ばれ、結果現在の世界における日系メーカーのシェアはご存知のとおりです。水がない、土地も無いという環境で農業を可能にするための知恵がイスラエルでは生まれ、もともと土地も水も有る日本ではその必要性がありません。また法律制度などで国内市場が保護されている環境では改善も、海外に輸出出来るようになるための品種改良も行われにくいでしょう。しかし企業で言えば問題が起こってからの対処では成長とは言えません。そこで常に問題点、弱点を探し改善していくこと、また携帯電話・農業に限った話ではなく、あらゆる分野で世界の事例に学ぶ姿勢が求められているのではないのでしょうか。点を内から外へ変えてみることで新たに

見えてくることは多いはず。

名古屋シテイマラソン

牧野 光昌（企画営業部）



3月12日名古屋ウイメンズマラソンと名古屋シテイマラソンが同時開催されました。

昨年ランニングシューズネタで社内報に投稿してから、はや1年である。60歳を超えると1年の体力の衰えが良く分かります。毎年下降しているタイムが今年も昨年より大幅に落ちましたが、今回は完走できれば良しと思っていましたので、まずは良しです。自分が参加していたので、ウイメンズマラソンのテレビ観戦は出来なかったのですが、初マラソン日本最高&日本歴代4位の好記録で2位に入られた安藤友香さんの『忍者走り』が話題になって、解説の高橋尚子さんもべた褒めだったようです。安藤さんは、もともと上半身の使い方がよくなくて、腕を振っても足と連動しなかった事で、こういう独特のフォームの走り方にされたようで、本人も違和感を感じない走り方と言っている。同じ岐阜県出身で金メダリスト高橋尚子さんは翌日の中日新聞に「安藤選手は走るフォームは非常にマラソン向きでぶれないという所が一ついいところですけど、気持的にもすごく冷静に判断がずっとできていたのが、これから楽しみな選手だなと思いました。」と分析されている。東京オリンピックピックが楽しみであるとも。ここまで話題になると『忍者走り』を真似する人が出てくるのでは・・・と思ったいや、まずは自分が真似してやろうと思ってしまった。練習でのランニングで取り入れてみて、調子が良ければ来年の目標ができる。もし調子が悪くて走れなくなったら不参加の理由が出来る・・・かな。

こんな軽い気持ちで来年も軽率に参加するので、安井さんよろしく御願致します。

波紋

加藤 雅昭（営業部）



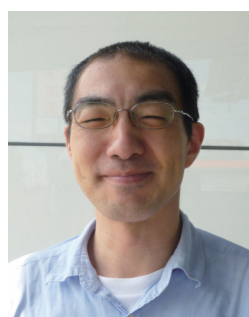
この波紋という社内報の原稿を書くようになったのは入社してからのでもう27年？がたつというのは早いものです。はじめは年に1〜2回？くらいだったような気がします。近頃は3、4回か？はじめは何を書こうか悩んでいましたが下調べ、記憶の整理等、パソコンの進歩やインターネットができてからはいろいろなことが即調べれてデータとして保存できとても便利です。いつしか知らないこと、わからないことを週末に調べて文章にまとめるのが楽しくなっています。酒を飲みながら音楽をかけ、いろいろなことに空想・妄想を広げながらネットを検索し文章にまとめる。本当にインターネットは宝箱。日本のサイトだけではなく、海外サイトにも楽しい情報や知らなかった情報がいっぱい。近頃はページを自動翻訳してくれるのでとても便利です。結構週末夜の楽しみなんかになったりしています。酒を飲みながらなので文章にまとまりがなく、気が付くと好きなことだとA4サイズだと10〜20枚以上にもなってしまうことも。

近頃の私の波紋の文章は、そこから抜粋してこじんまりとまとめて波紋委員会に提出していた。旅を題材に1、2、3。音楽が好きなのでこちらを題材に1、2、3等々。ところがネタはタイムリーな時期を外してしまったり、あまりにも利己的なものを外していき、選択していくと、あれ？これって書いたっけ？と自分でもわからなくなってくるものが多々出てくる。初めから波紋用としてまとめ、分割できるようにしておけばよかったと感じる今日この頃です。

今回は自分の今まで書いたものをチェックしようとするが、パソコンのデータが飛んでしまい、調べられないものもある。ところが弊社のサイボーズには過去の波紋がなんと全部そろっている！でも調べるのもおっくうだしな。とりあえずこれから夜な夜な書き溜める文章は分かりやすく整理しておこう・・・などと波紋に関して考えて今月は終わりといったします。また楽しい週末の夜を迎えよう。

私の好きなテレビ番組

松井 宣和（製造部）



私が好きなテレビ番組でテレビ愛知「工場へ行こう

PART2」（毎月第2・第4土曜日 午後2時30放送）があります。東海地区の製造業にテレビカメラがはいり私たちの身近なものにフォー criフト・紙管・人気食品・QRコード・自動車マフラー・刃物類・包装パッケージ・公園遊具・貯水槽タンクなど。コンタクトレンズは素材の切削制度は0.01ミクロンでレンズの一番薄いところは0.01ミリとか随所に生産ライン工程の紹介があり秘められたこだわりやエピソードを紹介してくれます。最近ではダンボール工場へカメラが潜入して原紙からダンボール箱までの一連のライン生産の紹介がありカメラをとおして加工方法をちよつとしたことやコツなどを教えてくれます。見ていて感心しながらも参考にもなりません。実際に自分が使用していて何気なく使っている品物が、なにかしらの困難やアイデアのもとに成り立っていることがわかりました。大切に使わないとバチが当たるのではないかと思ってしまう。また番組では困難にぶち当たった時の考え方や発想のヒントが盛りだくさんに紹介されていて大変参考になります。ものづくりの世界がよくわかりいつも録画して視聴しています。見どころ満載の内容になっておりますので是非ご覧ください。



魚屋から森松マンへ

加藤 俊輔（裁断部）



昨年の11月末から入社致しました、加藤俊輔と申します。以前は高校卒業から熱田区にある名古屋中央卸売市場で4年半生鮮魚の営業をしていました。その季節に応じてお客が欲しがるものを他社にとられる前に買い占め、自分だけで高く売ることがやりがいでした。荒々しい人や、がさつな仕事場でしたが生き生きとした現場でした。ここに勤めていたお陰で魚の鮮度の見極めや、スーパーでどのようなものがどのような意図で売られているかがわかるようになったので働いてよかったなとは思っています。退職理由は休みは月に3日あれば休めたほうで、お盆、ゴールデンウィーク、年末年始も1日しか休めず、連休がなく旅行すら行けないことです。時間帯もみんなと真逆な生活がこの先もだと考えると、何十年後とかに体が持たないと思いつきました。森松に来てから生活時間が安定し、毎日が楽しくなりました。これから森松で一生懸命働いていきますので、今後よろしくお願ひ致します。

森松株式会社のオリジナルキャラクター
守り隊の『マモーリン』誕生しました！



このたびLINEスタンプデビュー☆
全40種類100円で販売しています！
いますぐクリックしてね！

1日 (土)	第一土曜日休み
7日 (金)	橋野徳明さん誕生日
8日 (土)	第二土曜日休み
14日 (金)	伊東郁二さん誕生日
15日 (土)	東浦 於大祭り甲冑隊出陣
17日 (月)	三輪りつ子さん誕生日
22日 (土)	第四土曜日休み
24日 (月)	生産会議 CS会議 14時10分〜
4月29日 (土)	GW休業期間
5月7日 (日)	



森松株式会社 社内報

No: 382 平成29年 3月 30日

編集者 大石耕平 小坂美香 村上美和子
稲葉善貴 柳原 瞬 間部将大 伊藤ゆかり
近藤結礼 加藤俊輔



プライスレス

村上 美和子 (東京オフィス)



ピカソの有名なエピソードがあります。ある日、道端で熱烈なファンに絵をせがまれます。30秒ほどで小さいながらも美しい絵を描き、彼女に手渡し微笑みます。「この絵の価格は百万ドルです。」そんなピカソさん！だってこの絵を描くのにはたったの30秒しかかかってないですよ！」と驚く女性に、ピカソは笑って言い放ちます。「30年と30秒ですよ。」デザインやアートなど作品の価値を決めるのは、必ずしも作品そのものにかかった時間ではなく、作品に宿る作家自身の積み重ねた経験と才能とひらめきの魔法のようなものではないでしょうか。これはピカソのように天才でも芸術家でもなくても、あらゆるデザイナーやアーティストに当てはまると思います。サンフランシスコの大学でこれからは何をするにもすべてITだと習いました。アメリカではちようどインターネットが庶民に普及した頃でした。いろんなご縁があり、イラストレーターやフォトショップなどのソフトウェアを独学で勉強しながらはありましたが、デザインの仕事を頼まれるようになってかれこれ20年近く経ちます。いろんな仕事がありますが、時間がかかるものもあれば一瞬でできるものもあります。時間はかかるだけかかるものですが、時間をかけたからといって必ずしもいいものになるとは限らないし、実際個人の経験ではピカソと閃いて割と時間がかからずにできた時ほど勢いがあったいいものであることが多いです。パッとできたものも、その後時間をかけて吟味してから戻ってくることで、さらに良さが確信できることもあります。最近、頼まれたらすぐに対応できるスキルがあつてよかつたなと思うことが多くあります。伊達に20年経ったわけじゃないんだなと思う今日この頃です。